答えて市長！一般質問――前ページからの続き

ITリテラシーの底上げは当市の重要な課題

妹尾　百合子

(問)　ITリテラシーについてそれぞれの見解を伺う。①小中学生の情報モラル、家庭内での指導は②子育て世代、保護者のスマホ育児等の指導は③高齢者のネット消費トラブル啓発は④庁舎内のセキュリティは⑤学校教職員の指導・育成、システムの取扱は

(答)**教育部長**　①各校で指導を積み重ねている。家庭向けに注意喚起すると共に情報交換の場を設けるなど啓発も進めている。⑤年度当初に全職員に向けた研修を行い、継続指導もしている。

(答)**健康長寿部長**　②スマホ等視聴状況を健診時のアンケート等で伺い、過度な視聴について注意を促し、親子の時間を大切にと助言。③消費者被害に関する予防周知を行い、商工課が被害防止に係るミニ講座を実施。

(答)**総務部長**　④後期基本計画の施策の一つとして取り組んでいる。引き続き、研修等を通じ適切な業務情報の取扱いができるよう能力の向上を図る。

吉川団地内スーパーが閉店　買物弱者支援、市の施策を

遠藤　義法

(問)　買物が困難な住民の増加が社会問題化する中、吉川団地内のスーパーが4月7日に閉店しました。市の対応・対策は。

(答)**健康福祉部長**　UR都市機構へ「速やかな後継店舗の要請」と「市内業者宛てに移動販売等の要請」を行いました。

(問)　市はもっと積極的に買物弱者対策を推進すべきです。

(答)**健康長寿部長**　フォーラム等勉強会を開き、その後住民の協力を得て協議体をつくり対策を講じていきたい。

◆被災者に配慮ない、放射線副読本の見解と取り扱いは

(問)　原発事故から8年が経過。文科省が全国の児童生徒に配布した「放射線副読本」は、被災者への配慮がなされていない等指摘されています。市の見解は。

(答)**教育部長**　避難児童に対するいじめを防止する内容と復興が着実に前進していることが明記されており、市としては問題ないと捉えています。

ジュニア・アスポート事業の早期設置を

加藤　克明

(問)　生活困窮者世帯などの貧困連鎖の解消に向けた小学生の学習・生活支援を行う「ジュニア・アスポート事業」の早期設置を。

(答)**こども福祉部長**　県のモデル事業として、平成30年度に実施され5市2町6教室で開催。学習支援・食事の提供・体験学習など実施。教室への通所における安全性や公平性を確保するためにも小学校区ごとの開設が理想で実施に向け課題も多い。小学生からの学習支援は貧困の連鎖を防ぐ手段として有効な事業であり、調査研究に努めていく。

(問)　市では、生活困窮者世帯の高校生・中学生に学習支援を行っていますが、受講している生徒数、また小学生の兄弟は。

(答)**こども福祉部長**　高校生13名、中学生32名。小学生13名。

(問)　中学生以下の子どもがいる世帯で低所得線を下回る世帯数は。また、ひとり親世帯では。

(答)**こども福祉部長**　率で7.4％約850名程度該当。ひとり親では、率で44・4％となっている。

公園再生プロジェクトと安全安心のまちづくり

松﨑　誠

(問)　関公園には、桜・メタセコイア等多種多様な品種がある中で、「桜の公園」としたのか。

(答)**都市整備部長**　平成28年度に市職員により公園の現地調査を行い特徴や課題を検討する中で、公園を囲う形で桜が植樹されていることと、桜まつりや東側の二郷半用水沿いの桜並木、ポケットパークと一体感を持たせた中で再生を行うことから「桜の公園」と定めたところです。メタセコイアについては貴重な樹木との認識を持っていません。

(問)　堤防強化対策事業及び防災ステーション整備に向けた考え方は。

(答)**都市整備部長**　江戸川河川事務所との協議を進めていく中で、活動拠点となる水防センターや平時における土地の利活用方法については吉川市が担うこととなっており、より良いレクリエーションスペースとなるよう、地域の皆様と意見交換を重ねてまいります。

「吉川東口」産業ゾーン見学できる工場も

伊藤　正勝

(問)　吉川美南駅の「東口開発整備」は10年計画の3年目。事業の進捗状況。商業・業務ゾーン、産業ゾーンへの関心の度合いを伺いたい。

(答)**都市整備部長**　進出に関心を示している企業33社を去年パートナー事業者として認定。産業ゾーン17社。商業・業務ゾーン13社。両方が3社である。各社と2～3回、個別に意見交換などしている。産業ゾーンについては見学のできる工場など当方の要望に沿った進出について手応えを感じている。商業・業務ゾーンについては、パンフレットで例示したホテルやアミューズメントは今のところ出ていない。文化、教育施設も民間だけでは難しい状況だ。

(問)　33年度の土地の引き渡しなど計画変更はないか。

(答)**都市整備部長**　立地企業の公募要件をまとめ年度内には募集開始の予定。地権者は9割方の合意を得ており、残りの方々とも話し合いを進めている。

高齢化に伴う利便性の高い公共交通の実現にむけて

岩田　京子

(問)　公共交通は、免許返納後の移動の足として非常に期待されている。市内循環バスを有料でという要望もたくさんいただいている。市民が納得する公共交通に向けて、市民参画で行う公共交通会議の開催を、市民の会としても要望してきているが。

(答)**政策室長**　開催の考えはない。

(問)　歳を取ってからバスに乗り始めるのではなく、若いうちからバスを選べるようなバス優先社会の実現が必須。私たちが乗り物を選ぶとき、次の移動への「連続性」が大事。雨にあたらない、待たない、乗換えが楽、距離が近い等。駅前の対策は。

(答)**政策室長**　これから開発する美南駅東口では、駅から一番近いところにバスを置いて、遠いところで一般乗用車が乗降するようなロータリーにする予定。

(問)　「駅に近い」にプラスして、「雨に当たらない」というメリットもあるといいと思うが。

(答)**都市整備部長**　今後の検討になります。

通告第16号、小林昭子議員の一般質問は、欠席により取り下げられました。